

真和



∞ 生体システム実践研究会

8 2022
令和四年
月号



年間テーマ

巔精髓想全

感性能力を磨き、勉の探究が
単位存在の本質を求めることにつながる

● 北海道支部特集

想造態を想造する

NOアレルギー産業に向けて

社会貢献事業 贈呈式レポート

北海道ブロック産業技術セミナー

● もの語る 連載第3回

● はじめの一步

● お知らせ・勉強会案内・編集後記

ここで生産される作物が薬草以上の能力をもつために、私たちは何ができるでしょう？

北海道・新千歳空港周辺に広がる農業地帯



「今まで参加した勉強会で一番いい勉強会でした」

栗田幹事長がこう評したのは、6月10日(金)に開催された「北海道ブロック産業技術セミナー」。

幹事長だけでなく、参加した中澤十四三副幹事長、市川佳永幹事も同じように感じたといいいます。はじめて参加した方や久しぶりに参加した方からも、大きな気づきを得たり、心に残る体験ができたというコメントを頂きました。取材した私自身も、今までにない高揚感を感じていました。こうした場がなぜできたのか？その理由を裏方として尽力された北海道支部事務局、(有)能源の中澤由幸氏にお聞きしました。

編集部…佐藤先生が遠征される今年唯一のセミナーおつかれさまでした。今回は3日間のスケジュールで、9日の小麦サイロの視察、10日午前のアグリシステム視察、午後の産業技術セミナー、11日の本別町への社会貢献事業の贈呈式と盛りだくさんでした。移動も多く、全国から参加者が来ることもあり細かな調整など、気苦労も多かったと思います。

編集部…今回は企画したはいいいものの、コロナ禍で佐藤先生が来られない可能性もあり、最後まで無事に開催できてホッとしています。北海道の産業を活性化させるためにも、こうしたイベントは必須だと思っています。

新規20社を掲げ、結果的には60名の参加で、はじめての方が20名。こうしたイベントでは、はじめての人たちはどう想いを届けるかが一番の課題なので、「今まで参加した勉強会で一番いい勉強会でした」という幹事長の言葉は励みになります。

編集部…じんちづくりと、こうした物語の上に今回のセミナーの場があったのですね。初めて参加した方に好印象だったのも、セミナーの物語がはじめての方を中心に考えられているからなのだとわかります。

今までにない、人智を超えた場が出来ていたと感じられたのも「セミナーの物語」を託された想造態(そしじ)が想造され、その物語をさらに進化させるために想造体がブロックやチラシとして出来、その物語を託されたブロックが自立的に空間を解析しその場に必要因子を生み出していく想造主となり、想造態を想造しつつけていく(＝想造解環)。このブロックによってチラシの能力も加算されて今回のセミナーの場が想造されていた、こう考えるとみなさんの今回のセミナーに対する高評価も納得できます。

私自身がこう思えるようになったのも、オンラインで実践していた「そうぞう産湯」の体験があるからなのです。オンライン(ZOOM)で時間を共有しているだけで、自分の家のお風呂がトロトロになったり、髪の毛がツヤツヤになるといっても、そこに物語化された想造態(そしじ)が出来ているからで、これは人智を超えています。セミナーでもオンラインでも、自分の会社やつくる商品、毎日の食事さえも、こうした想造態(そしじ)を想造することができるといふことを、今回の北海道ブロックの産業技術セミナーの実践は見せてくれました。

私たちが毎回こうした場を想造することができれば、じんちみの社会を共に探求していく仲間を得ることも難しくないと思えます。

中澤さん、今回はいい実践の場を見せて下さりありがとうございました。

編集部…参加したみなさんの反応をみていると、特に初めて参加した方の心に残る勉強会だったと思います。今まで北海道で開催した勉強会と何が違ったのでしょうか。

編集部…大きくは3つあると思います。ひとつはコロナ禍の数年で佐藤先生の学問が大きく進化していること。2つ目は、生態系生体システムプログラム建築で自宅(じんち)を新築して、自身の能力が高まって初めての勉強会だったこと。3つ目は、セミナーの物語を書き出してブロックをつくり、この物語をジャパン・スリーブさんの印刷でチラシに託したことなのです。

編集部…「自宅のじんちづくり」が理由にあがっているのは、この会ならではの思いです。自宅の能力が高まると、住んでいる人の能力が高まり、想造の準拠位置が高まります。結果的にこのじんちに住む人が想造するすべての能力が高まることになり、

当然セミナーの準拠位置も高まる。その結果、今までにない反応がセミナーに起こったと考えられますね。

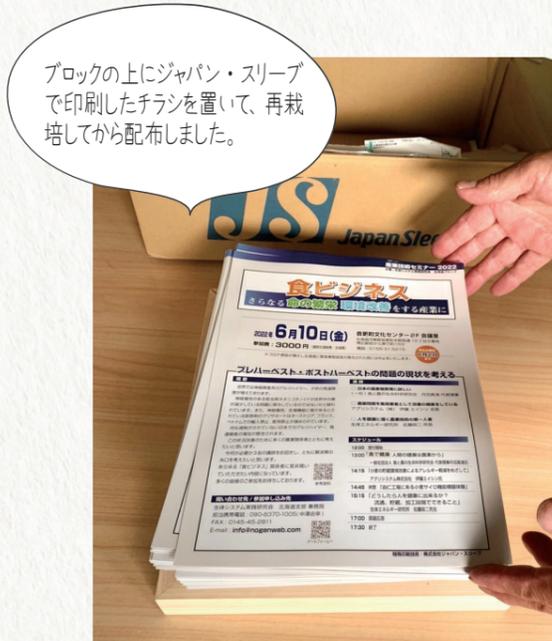
具体的にセミナーの物語はどのような内容だったのですか？

編集部…目的としては「食産業に携わる企業に参加していただき当会の目的を理解して生体エネルギー技術を理解し、地球環境改善、国民の健康増進に寄与するために生体エネルギー技術を取り入れる機会にする。新規20社以上の企業参加を満たし生体エネルギー技術を取り入れる企業に誘導する。そして、じんちみの経済を共に探求する仲間となる」としました。

そして、チラシを配る会員の意識やチラシの働き、参加してくれる企業や会員にとつなげて欲しいか、目的とするところ、必要な能力の両方を物語化していきました。

編集部…もう少し具体的に教えていただけますか？

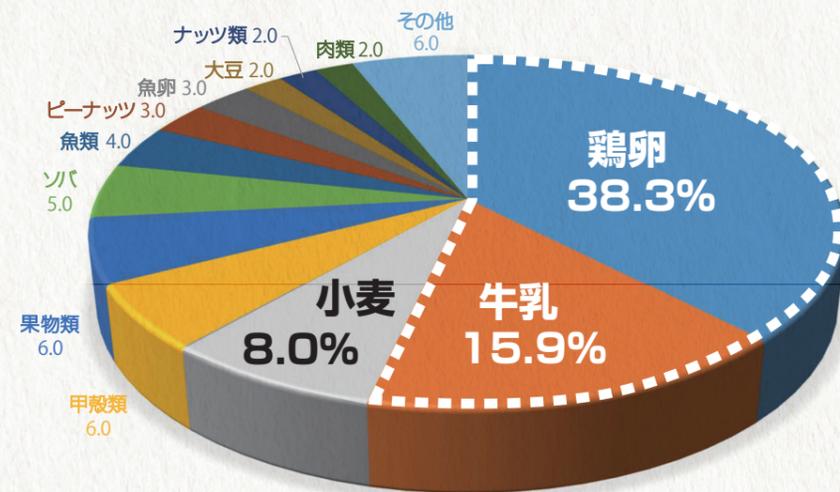
編集部…目的とするところ「は、例えば、新規20社に参加してもらうことや、じんちみの経済を共に探求する仲間となることなどです。必要な能力は「目的に達するまでに必要な条件を更に微分した条件」とも言えます。具体的には、チラシを手にとった人がそれを渡したくなる条件や、参加した人の心が動いて共感してもらったための条件です。肉体で言えば「健全化」を目的とするならば、そのためのATPやタンパク質のSS結合、生体水の能力、そして生体エネルギー準拠位置の能力、そして根源まで遡ったあなはん、あでしじりといった概念は能力と言えます。



NOアレルギー産業に向けて

人類社会の連作障害を克服する

アレルギー原因食品



原因食品の内訳
総症例数=3,882

(対象は食物摂取後60分以内に症状が出現し、かつ医療機関を受診した患者)
出典：「食物アレルギー診療ガイドライン2012」(日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会)
資料提供：(一社)日本環境保健機構

「食」と「環境」

この2つはあらゆる生命にとってなくてはならないもの(必須)であり、人の心身健康の健全化を目的とした時に、最終的に行き着く先がこの2つです。この視点でものごとを見ていくと、様々なことが見えてきます。

「食」は肉体をつくる材料(元素)。空気や水もここに含まれます。

「環境」は住まいや建築だけでなく、すべての環境(場)です。有形だけでなく、空間をとりまくすべての存在の放射エネルギーで環境はつくられています。そして「食」や「建築」のもつ放射エネルギーも環境(場)を構成していることから、「食」と「環境」各々に有形の構造体と無形の環境(場)があると言えます。

※生体エネルギー理論にはあらゆる単位個に共通する万物の設計図、構造体きかきには、次元・属性・釐正があります。これらは詳細に解析されており、有形の構造体と無形の環境(場)も、それぞれ釐正反応の「殻満」と「画磁・拡報(放射エネルギー)」として同じ原理の中で表現できます。

アレルギーになってしまった理由

アレルギー原因食品の中で、半数以上を占めるの

したらエネルギーの高い環境では精神的に落ち着き、肉体が健康で生きたことは、結果として私たちの健康に繋がるのではないのでしょうか。

卵と牛乳がアレルギーになりやすい理由

ここで不思議に思うのが、肉よりも、卵や牛乳のほうがアレルギーになりやすい理由です。卵と牛乳が54.2%に対して、肉類は2%。多くのエネルギーと栄養分を必要とする生殖機能が劣性遺伝子支配の連鎖で、劣化しやすい環境に陥っていることは容易に想像できます。卵や牛乳特有のタンパク質の影響と考えることも出来ませんが、これを優性に誘導することでアレルギーが出ないことを考えると、アレルギーを出さない準拠位置を鶏や牛に持たせることが一番の解決策です。そのために鶏や牛の「食」と「環境」を励起する必要があります。

この傾向はそのまま人にも当てはまるのではないのでしょうか。分電盤さとりHを設置しただけで子供を授かった話をいくつも聞くと、人でも生殖機能は一番マイナスが出やすいと考えられ、逆に言えば、ここを改善する準拠位置をもつことができれば、他の多くの問題は自然と解決されていくとも言えます。

アレルギーを出さない産業にむけて

生態系生体システムプログラム産業では、卵や牛

が「卵」と「牛乳」です。これに「小麦」が加わって、3大アレルギー食品とされています。全人口の1〜2%(乳児に限定すると約10%)の方々が何らかの食物アレルギーを持つと言われ、最近ではナッツが13.5%となり、小麦を越してしまいました。なぜ?食品でアレルギーが起きてしまうのか。その理由は食物の「連作障害」、私たちが劣化させてしまった環境(自我意識も含む)、添加物や農薬といった「人工的な化合物の能力不足」この3つに集約できると考えられます。

あらゆる産業の「連作障害」を克服する

連作障害は、一般的には同じ農地で同じ科の作物を作り続けると、収量が落ちてくる現象です。この要因には、自然(土)の回復する能力よりも負荷をかけて生産性を向上させようとする人間の産業視点があります。そして、その結果を連作障害とするならば、あらゆる産業で連作障害は起きていると言えます。

2大アレルギーで挙げた卵と牛乳も、生産性を高めるために鶏舎・牛舎で飼育して効率のいい餌を与え、薬で病気を抑えて単価を下げて、消費者はそれが高いからと消費する。その結果がアレルギー原因食品になってしまっているという負の循環。これも社会が生み出してしまった連作障害です。

人間の都合で生産性を高める仕組みが、結果、能力低下を起してしまっています。しかし、私たちは命をいただかないと生きていけません。そうだと

乳だけでなく、金属アレルギー、アトピーの人でも入れるプールなど、あらゆるアレルギーを出さない産業が可能になり、このことは多くの実践者が実証してくれています。

そして、生体エネルギー技術では、あらゆる産業で起る「連作障害」の負の循環を、すべて優性に導く正の循環に変えてくれます。

最終成果物はじゅうしみの社会

アレルギーを出さないだけでは、劣性遺伝子支配から遺伝子支配に戻っただけでその先にある優性遺伝子支配、超優性遺伝子支配が基本となる「じゅうしみの」の能力にはまだまだ及びません。そもそも本当の「じゅうしみの」の能力を持つ農作物を私たちはまだ知らないのです。

次にご紹介するのは、アレルギー原因食品として卵と牛乳の次に有名な「小麦」の能力を高める実践です。小麦の連作障害は、土壌の劣化と大量の農薬という2重のマイナスからタンパク質の能力が低下して起こっていると考えられます。これを改善するために、小麦を貯蔵するサイロの基礎に生体エネルギー技術を導入した、アグリシステム株式会社の小麦サイロを見学させてもらいましょう。



味比べの実験につかう食材は、もちろん小麦製品が中心。今回アースで加算した基礎にのせたパンは見た目にも変化がわかるほどに変化していました。



今日は寒いですけど、このコンクリートの上に座るとポワッとあたたかくなります。飛行機に乗ってきたので疲れもあるので、ここにいると清々しくなります。



1基 1500トンの小麦を貯蔵できるサイロ。この基礎下に底力と岩森力、コンクリートに力丸を使用。鉄筋にはアース線を配して電気で加算できるようにしている。最終的には 20 基 3 万トンの貯蔵が可能になります。

この3基が基礎に生体エネルギー技術を活用したサイロです。ここから 1.6km 離れた郵便局からもこのエネルギーを感じられる人がいて驚きます。



サイロを訪問した翌日の午前中は、芽室町にある本社の倉庫を見学。電気の能力を高めた小型の冷蔵庫で実験を行った。



日本は輸入小麦が85%を占めます。これらの小麦は船で暑い地域を通過してくるため、虫がわかないようにポストハーベストとして有機リン系の農薬が大量に使われています。また小麦の乾燥効率をあげるために、プレハーベストとして除草剤を収穫直前に撒いています。これらの農薬が、アトピー、アレルギー、子どもたちの2割と言われる発達障害、化学物質過敏症などの原因と考えられています。

安全性から言えば、輸入小麦よりも国産小麦、国産小麦よりも国産オーガニック小麦なのですが、生産者はなかなかオーガニックでつくってくれません。そこで生体エネルギー技術を活用して、保管時に能力を高めることでデトックスする力のある小麦をつくっていきたくて考えてこの施設をつくりました。現在の小麦の取り扱いは1万6500トンですが、この施設が完成すれば3万トンまで貯蔵できるようになります。そうすると北海道の小麦の約5%のシェアとなります。できればこの小麦を北海道の子どもたちに食べてほしいと思っています。

グルテン過敏症の人も7~8%いると言われているので、小麦アレルギーも含めてどの程度、軽減されるか検証していきたいと思っています。



アグリシステム株式会社
伊藤エイシン会長
(会員番号 5139)



アグリシステム株式
ホームページ

Part 3 / 北海道支部特集

「未来の子どもたちのために」今できること
北海道の小麦5%の能力を高めたい

アグリシステム株式会社（北海道由仁町）



徳字で加算された分電盤さとりIH



分電盤さとりIHを通過した電源に冷蔵庫をつなげて食材を入れます

これらの徳字に自然が反応したら、機能したということ。農作物は瞬間に変わります。自然よりもはるかに上のものをつくるのが出来たときに、産業として価値があります。農業とは、例えばタンパク質をどういった能力でつくるかにあります。

ありがとうの徳字・・・単位存在のちち(超次元超能力超優性)の精神性が、エネルギーの中で霊が機能しはじめる

感謝の徳字・・・ありがとうよりも上の概念。魂とエネルギーで自分の至らなさを謝ること。

今回、実験として「分電盤さとりIH」に冷蔵庫をつなぎました。そして、この分電盤に数枚のカードを置いて加算しました。その中の2枚が「感謝の徳字」と「ありがとうの徳字」でした。

佐藤先生のお話は、自然界の法則、個の概念、自然哲学的加学範疇から、感謝の概念(りのり)に話が進みました。りのり(感謝)は、あとち(時の想造主)でのき(エネルギー)、しじげ(能力をつくる玄理)、じいか(感性)の次にくるもの。自分を取り巻くあらゆる存在や営みへの感謝が変わると単位存在が継続できるようになると言います。逆に言えば、これがないと能力を使いこなすことが出来ない要とも言えます。

未来の超能力からも求められること。あ

能力II人類宇宙自然から求められること。

懇親会は場所を移して、オーガニックパン工房風土火水の2階で開催されました。ここは伊藤会長の奥様のお店のこと。ここでも一人一分スピーチがあり、全員が発言する場が設けられました。日本人って自分で手は挙げなくても、当てられれば満更でもない人が多いのがよくわかります。

このレポートだけでは「今までの勉強会が一番良かった」という感想を実感することは難しいと思いますので、来年はみなさまの参加をお待ちします！そして、全国で開催される勉強会がこうした場になることを願っています。

佐藤先生の話が終わったあとは、3名の講師への質問タイムが始まりました。北海道支部では毎回質問する時間を長めに設けているそうです。それも拳手ではなく強制的に当てられていきます。佐藤先生の勉強会に参加したことのある方は、理解がおぼつかないと質問すらまともにできない雰囲気があるとあります。これ乗り越えていくためには、自分で実践しながら質問を使い深め始めないと、とっかかりすら見えてこないと感じています。



2022年6月10日(金) 音更町文化センター

- 13:00 「食で健康 ～人間の健康は農業から」
一般社団法人 食と農の生命科学研究会 代表理事丹羽真清氏
- 14:15 「小麦の貯蔵環境改善によるアレルギー軽減をめざして」
アグリシステム株式会社 伊藤エイシン氏
- 14:45 休憩 「由仁工場にある小麦サイロ機能模擬体験」
- 15:15 「どうしたら人を健康に出来るか？」
流通、貯蔵、加工段階でできること」
生体エネルギー研究所 佐藤政二先生
- 17:00 質疑応答
- 17:30 終了
- 18:30 懇親会



参加者全員に、森井さんお手製の蕎麦ケーキが振る舞われました。綾野さんのようかんもトッピングされています。



続いてのアグリシステム株式会社伊藤会長の話は、6〜7ページでもご紹介しているのですが、こちらを閲覧いただければと思います。

- ・生命食II正しい遺伝子を次の世代に継承することのできる食が必要
- ・日本の食にまつわる数々の問題を克服できる企業が社会に必要な企業
- ・健康で長生きするためには自分で考えて行動する「セルフメディケーション」をどれだけできるかが大切
- ・野菜や果実は早死を予防するデータの紹介
- ・野菜の色はフィトケミカルの現れ
- ・スーパーで「ア色の色をかこにいれよう」という消費者にわかりやすい方法を考え、全国のスーパーで展開されている。
- ・お米の力(メデイカルライス)
- ・米を主食にする国のほうが新型コロナ感染率が低い
- ・2011年に家庭の消費金額ベースで、パンがお米を上回った。
- ・小麦粉の人に与える影響
- ・日本の化学肥料使用量が格段に多い。
- ・農業の人への影響
- ・残留農薬の基準が日本は桁違いに緩い
- ・グリホサートと遺伝子組み換え
- ・病気やアレルギーを防ぐには？

長年食品業界に携わり、農産物の分析や食へのコンサルティンクを行ってきた丹羽真清氏。「食で健康 人間の健康は農業から」と題してお話して下さったのは次のような内容でした。



懇親会での全員参加の1分スピーチ



オーガニック野菜のビュッフェ

Part 4 / 北海道支部特集

北海道ブロック 産業技術セミナー2022 食ビジネス

さらなる命の繁栄と環境改善をする産業に

毎日使う水が変わるとどうなるでしょう？

データ1



水誘導翻訳装置「きわみ」

私たちの体の65-70%が「水」です。体内の大半を占める「水」が、水道水を飲み続けた場合と、何千年もかけて地下深いところから湧き出てきた岩清水を飲み続けた場合と、どちらが健全な肉体と精神を持ち得るのでしょうか？

体内で様々な媒体として役割を果たしている「水」が、健康と命に深く関与していることを先人たちは認識し、より良い水を探し求めてきました。

水誘導翻訳装置「きわみ」は大自然が水を浄化・活性化する岩清水の仕組みを再現し、さらに「能力」という新しい考え方を取り入れ、生命が最も必要とする状態に水を誘導することで、私たちの肉体と精神をよりベストな状態に導いてくれます。



植物や環境も変えていく「きわみ」の水

【データ1】は「水」の違いによる植物（かいわれ大根）の生育の違いを比較したものです。

水誘導翻訳装置を通過させた水道水の方が、根張り、莖や葉のボリューム感など明らかに生育が旺盛になっている様子が伺えます。同じ環境で栽培しても、水の違いだけで生育にこれだけの変化が出るのです。

新漏のある食品工場では「きわみ」を導入することで、保健所からクレームがきていた排水問題が解決しただけでなく、排水溝や排水の放流先の川に、鮎や鮭が遡上してきたり、工場の敷地内にオニヤンマが群棲するようになりました。動植物が求める環境がそこにできたからだと考えられます。

水の能力によって誘導されるのは、人や動物だけではなく、施設の厨房排水から油脂や残飯、野菜くずなどを取り除くグリーストラップ。通常、強い臭気がありますが「きわみ」を使った施設では、これが軽減して掃除がしやすくなり、排水は流れ出た川や海までも浄化していきます。

【データ2】長野県のある住宅団地では、一軒の家庭が「きわみ」を使用しただけで、135軒分の合併浄化槽の水が集まる排水口の水質が約30%も改善しました。

水誘導翻訳装置「きわみ」が導入された施設では、人の心身造の健康に寄与するだけでなく、流れた先の環境をも励起していく「能力の高い水」を、食事やお風呂、清掃など施設の暮らしの中で毎日お使いいただいています。

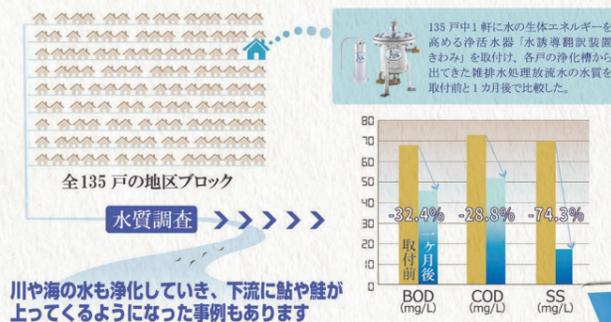
「きわみ」を寄贈した施設で起こった変化

- ・施設内特有の臭気がほとんど気にならなくなった
- ・介助がないと歩くことができなかった方が自立歩行できるようになった
- ・インフルエンザや皮膚病などの感染症にかかりにくくなった
- ・ぐっすり眠れて表情が穏やかになったり、楽しそうに歌うようになった
- ・利用者とそのご家族からの苦情がなくなった

- 子供たちのいる施設では
- ・お正月も外泊せず（家に帰らず）に施設で過ごす子供が多くなった
- ・ストレスによるアトピー性皮膚炎が改善された

「きわみ」の水の環境下で生体遺伝子を優性に導くことで、植物も人も自然もより良い方向になり、様々な可能性が開けていくことを確信しています。

データ2



24年間で 19施設 1.5億円以上を寄贈

長野県東御市に拠点を置く「生体システム実践研究会」では、真正なる社会に貢献するという当会の目的に沿った取り組みとして、公的機関（主に福祉分野）に生体エネルギー技術を提供してきました。全国1000人の会員から集められた会費の約25%がこの社会貢献事業にあてられています。このパネルについては、下記まで気軽に問い合わせください。

北海道支部事務局（有能源内） 電話番号：0145 (45) 2899
問い合わせ先： 本部事務局（桜マルセイ内） 電話番号：0268 (64) 1436



Part 5 北海道支部特集

社会貢献事業 贈呈式

北海道中川郡 本別町役場にて



6月11日土曜日、会員のみなさんの会費の中から寄贈された「きわみ」の贈呈式が北海道本別町役場にて執り行われました。

コロナ禍で贈呈式もずっと延期になっていましたが、産業技術セミナーで佐藤政二代表が北海道に入るタイミングに合わせて日程を調整してくださいました。休みの日にも関わらず、佐々木町長をはじめ、村本副町長、前佛所長、そして当会会員で長年本別町長を務められた高橋前町長は、退院して間もない状況で参加してくださいました。

高橋前町長は当会で長年学ばれて、その技術を町に導入して町が栄えていく想いをずっと持たれています。パトンは佐々木町長に渡すことになりましたが、今回のきわみを置き土産にして、今度は産業で本別と北海道を盛り上げようと新たな活動をされています。今回の寄贈も、高橋前町長と地元で支えて下さっている綾野さんのお陰です。ありがとうございました。

次ページに掲載したのは、本別町特別養護老人ホームに掲示していただく「きわみ」の説明パネルです。今まで寄贈した他の18施設にも掲示していただけるように働きかけたので、関係者のみなさまにはご協力のほどよろしくお願ひ致します。



もの語る

農業詩人・宮澤賢治と 穂別の物語



宮澤賢治の理想郷を希求した町が北海道にある。それは旧穂別町。北海道支那事務局(尙能源のある町だ。現在は合併してむかわ町穂別となっているが、穂別の名前はしっかりと残っている。

この穂別で農業詩人・宮澤賢治(1896~1933)の思想に共鳴し、理想郷「イーハトーブ(「HATOV」)を実現しようとしていたのが、若干37歳で村長になった横山政明氏(1909~1966)。その思想は人類と自然界の共存共栄が中心にあり、農業こそ自然界と共生できる基本的な営みとするものだった。

戦後、首長は官選から民選となり、最初の穂別村長選で当選したのが横山元村長。無月謝制の村立高校の創設、日本で最初のスクールバスの運行、60歳以上を無料診療する村立病院の設置など、教育・福祉分野で、画期的な施策を次々と実施。理想郷づくりに邁進していった。



廃線になった旧富内駅一帯は「銀河ステーション」と名付けられ、住民たちの手により整備されている。

宮澤賢治設計の花壇「涙ぐむ眼」(穂別)

こうした先進的な考えを持っていた横山元村長が人生を懸けて取り組んだのが「穂別TVA計画」アメリカのニューディール政策に触発された、ダム建設と電力開発を中心とした一大計画だ。

この計画は、ダムの建設によって鶴川の治水を行い、水力発電所の発電を利用してすべての家庭に電気を届け、石炭や石灰石、クローム、チタン鉄鉱などを開発することで、村民の生活と文化を向上させるもの。1000kW超の水力を協同組合自らが建設し、地域に電気供給していた例は「道内では穂別電力農協を含め2例しかない」(道開発局)それだけ画期的な計画だった。



村民の振り所になるもの

画期的な政策で穂別を活性化させるべく尽力していた横山元村長だったが、まだ足りないものがあると感じていた。それは「物質的な振り所」の基盤となる「精神的な振り所」だった。横山元村長は一柱の観音像をつくる道を選択することとなる。

「賢治観音」を造る決心をしたことには、もう一つの理由があります。…真当の村づくりには、賢治先生のような真当の教育者、宗教家が穂別に生まれ、穂別の無心な人々の心の中に正しく生きる喜びを呼び続ける事がどうしても必要な事を私は先生とお話をしているうちに痛切に思われてまいりました。そのためにも『賢治観音』を造らなければの思いがますます深くなってまいりました。…」

観音像の制作は、宮澤賢治の地元花巻の高村光雲一門で仏像彫刻も担っていた佐藤瑞圭氏に依頼すること

に。ここにも数奇な縁があった。佐藤氏が小学生の頃、花巻農学校教諭をしていた賢治が、通勤の途中にしばしば家の前を通り、庭で花木の手入れをしていた父と、親しく話をかわっていたのをよく見ていたという。佐藤氏は、自らのまかたに残る賢治の面影を生かしつつ構想を練り、観音像の原図を描いた。

参考および引用：https://hatov.cc/monument/093.htm



町に根付く「健康」の物語

穂別は近隣の町と比べても、先進的な風土は際立っているという。この町に横山元村長が生まれ、先進的な改革を行おうとしたのも、穂別の持つ「場」が前提にあると考えられる。この地に当会の北海道支那事務局が置かれているのも、この地が先進的な営みを営むことのできる「場」あつてこそ感じる。穂別から化石が多く発掘されているのを見ても、この地が恐竜たちのメッカだったのかもしれない。

高度経済成長期(1955~1973)以後、穂別の立地条件を生かす道と考えたのが、人類永遠のテーマである「健康」を主体としたまちづくりだった。都市や工場で働く人たちが、公害で苦しむ人達が、縁豊かな自然の中で健康回復を求めめる場として、穂別町を役立てようとする発想転換をしてできたのが「人間健康宣言の町」というコンセプト。

1978年(昭和53)「人間健康宣言の町づくり計画書」を策定。過疎地穂別が「すべての人に、心と健やかなからだを」をテーマに健康づくりを宣言した。「健康の源は食べ物にあり、その食べ物は自然の中から作られることが一番であり、そのために



googlemapより

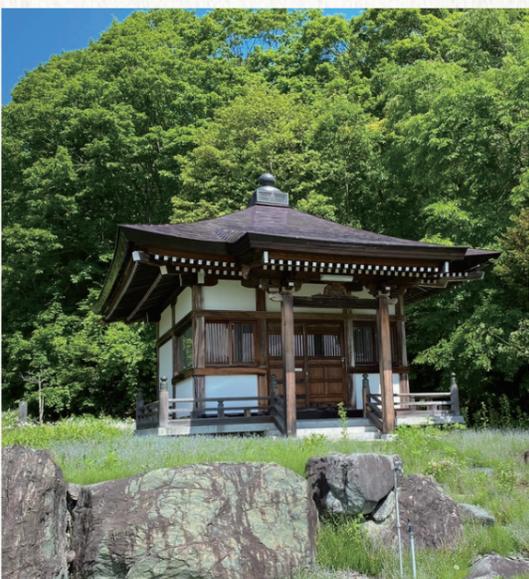


通称「賢治観音」

※横山氏と賢治観音の写真は「賢治観音縁起」より



横山正明 元穂別村長



賢治観音の祀られているお堂

は土づくりが大きな要素である。健康な土を作ることににより、低農薬・無農薬の食べ物が作りだされる」と、土づくりに力点をおいている。

1988年(昭和63)には「ヘルシーフードタウン穂別」を新たなキャッチフレーズに加え、健康まつり、健康講座を開催し、住民すべてが健康に感心を持ち、健康で暮らせるそんな町をめざしている。

1991年(平成3)には「ふれあい健康センター」を新設し、保健所の歯科医師を迎え、予防医療の充実に一層の推進をめざしている。

「からだと土は一体。健康づくりは人づくり」とあくまでも健康を追求し、そのためには何をしなければならぬか。自分達だけでなく、子供、孫へと引き継ぐため、健康という永遠のテーマに向かって町づくりを進める「人間健康宣言の町」それが穂別です。

引用：http://www.ashita.or.jp/publish/furu/193/24.htm

当会の中澤十四三副幹事長も保健師としてこの健康センターに長年関わってきており、「人間健康宣言の町づくり」の理念に惹かれて穂別に就職した。



先人たちの物語を継承し具現化する

「恐竜たちのメッカ」「先進的な風土」「横山元村長の託した理想」「宮澤賢治の精神性」「人間健康宣言の町」「ヘルシーフードタウン穂別」この地に先人たちが想造した物語の上に今の穂別があり、30年近く生態系生体システムプログラム農法を実践してきた中澤兄弟の中澤農園と(尙能源)北海道支那事務局がある。先人たちの想造した物語をキャッチフレーズに終わらせないために何が出来るだろう?

No.281

はじめての一步

リレー投稿 Since 1999



はやさかのぶよし
早坂 信義
(山形支部・会番号4538)

こんにちは。山形支部の早坂信義と申します。

私の生体エネルギー「はじめての一步」は、山形支部事務局の早坂正博さんから「面白い取り組みをしているけど聞いてみる？」とお声がけいただいたのが最初です。平成25年頃のこと、その「面白い取り組み」を山形支部事務局へ聞きに行った記憶があります。

そこで、お米「命仁」の話を聞き、実際に田圃でオーリングテストや味覚実験を行い、その変化に対する驚きと、謎に対するワクワク感を覚えながら入会を決意しました。その後は、支部活動や本部勉強会に参加し、たくさんの方と縁を持つことができました。

私は、新型コロナウイルスが蔓延し始めた令和2年2月から手術のため2か月ほど入院しました。退院時は歩くことがやっとの状態でしたが、現在では普通に生活できるまで回復しています。今なお背中に18本のボルトが入っていますし、まだ闘病中の身ですが、生体エネルギーのおかげで薬は薬として、体で機能しているイメージし生活しています。

その後は、新型コロナウイルスが拡大する中、自宅療養生活をおくりました。そんな時、以前勤務していた会社の後輩から仕事の依頼を受けました。内容は、「コロナ禍で業績が

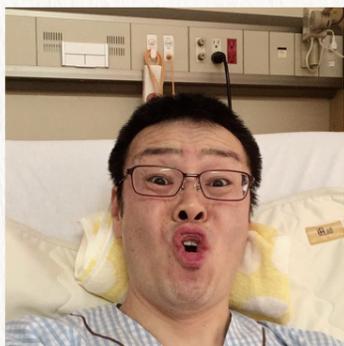
悪化した企業の業績回復のお手伝い」です。その後輩に背中を押され引き受けることにしました。これが、現在の私の仕事のはじまりです。なかなか一歩を踏み出すことができない経験は、皆さんもあるのではないのでしょうか。私の場合、死を覚悟して生活していたため、自分が本当にしたいことを後悔しないよう始めてみたいことを後悔しないよう始めたというのが本音です。自分のためというよりも、私が力になりたい人のため、さらには家族のため、人生をかけることにしました。

自分の会社の紹介になりますが、令和3年10月に株式会社シントギという会社の代表に就任し経営コンサルティングの事業を本格化、山形県宮城県、岩手県、青森県と少しずつ仕事が増え始めました。幸いWEB対応が一般化しているため、体への負担も少なく仕事も軌道に乗り始めています。企業の存在する目的意識を最初に共感しながら、私の役割をマッチングさせながら、お取引先の経営者と一緒に仕事をしています。主には、経営企画や財務改善の仕事が多いです。生体エネルギーの考え方のほんの一部ですが、私には大きな要素となり役に立っています。

とはいえ、今の一番の思いは、自分の体の回復です。もう少しだけ子供たちの成長を見ることができよう、世の中に必要とされる人生を歩んでいきます。また、こうした縁



現在、米研さんの田んぼを手伝っております



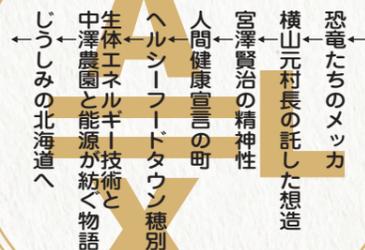
入院でびっくり中

をいただきました皆様、心より感謝申し上げます。「ありがとうございました。」

次は、青森支部の朝井ふみさんにバトンタッチします。

編集部より
本誌は会員のひとりひとりが作り上げていく会報誌として、投稿された方の生の声を尊重しておりますが、実践や理論の専門的なことは生体エネルギー研究所に監修を依頼しております。内容により一部表現を変更させて頂く場合がございます。ご承知ください。

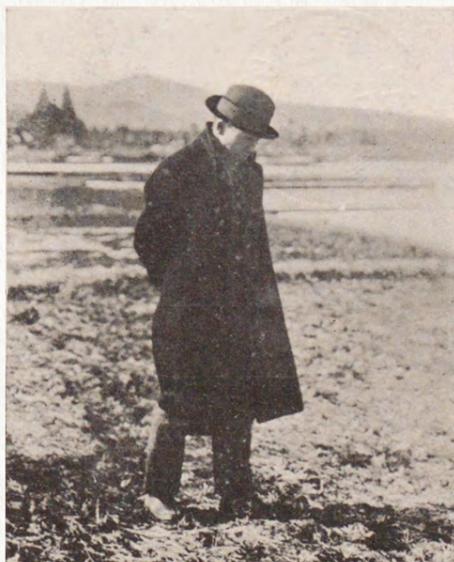
穂別発の物語



先進的な風土

新たな界命を想造し すべてを一個にする

生体エネルギー理論と技術を活用すれば、賢治の「すきとおったほんとうのたべもの」をつくることができる。しかも穂別には、賢治の物語性に加えて先人たちが想造してきたたくさんの健康に関する物語がある。こうした物語も、一般的には単なるキャッチフレーズと考えてしまっただろう。しかし、生体エネルギー理論ではあらゆる情報を使いこなすことができるのだから、これらを生かさない手はない。



田の中に立つ花巻農学校教諭時代の賢治



すきとおったほんとうのたべもの

宮澤賢治は、「注文の多い料理店」の序文の最後にこんな言葉を残している。「けれども、わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません」この「あなたのすきとおったほんとうのたべものになること」という言葉に心が惹きつけられた。詩的な表現に惹かれただけでなく、そこには勉強会での実体験がある。



次なる世代の躍動へ

中澤農園も事業の継承を行い、今は四代目があとを引き継いでいる。

そんな中、今年の春に中澤農園に新しいスタッフが入ってきた。しかも近畿大学の新卒だ。なぜ大阪の有名大学の学生が北海道の農園に就職してきたのか？

穂別では町で有名な人を表彰して自ら縁をつくらせていた時期がある。このときに縁が出来たのが、芥川賞作家の奥泉光氏。今は近畿大学の教授となり、彼は奥泉研究室に所属して、農業関係の就職先を相談したところ中澤農園を紹介してくれたという。縁はどんな形でやってくるかわからないが、それも毎年だるま芋を贈っていたというから、つくった縁を紡いできた努力以外のなものでもない。

16ページに続く

